R8年度
校内研究について

大田区立入新井第五小学校
研究推進部

R8年度 研究主題

持続可能な社会を創り出すグローバル人材の育成
～各教科等の特質に応じた学習指導を通して～

◎ 研究主題設定の理由

本校は、大田区にある学校である。そのため、国や東京都の教育施策のみならず、大田区の教育施策にも則って教育を行うことが必要である。おおた教育ビジョン（第4期大田区教育振興基本計画）では、「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」を理念とし、3つの基本方針が示されている。この基本方針の1つが「持続可能な社会を創り出すグローバル人材の育成します」である。大田区に設置されている小学校として、上のような人材を育成することが求められている。

また、令和7年9月25日、教育課程企画特別部会から論点整理が示された。そのうちの学習指導要領改訂の大きな方向性という項目では、右にある通り、

> 生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むため、
> **①「主体的・対話的で深い学び」の実装**（Excellence）
> **②多様性の包摂**（Equity）
> **③実現可能性の確保**（Feasibility）
> の3つの方向性を踏まえて議論を行う。これらの3つの方向性に基づく改善は、教育課程内外のあらゆる方策を用いつつ、三位一体で具現化されるべきものである。

とある。

また、①「主体的・対話的で深い学び」の実装は、現行学習指導要領が目指している、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じた資質・能力の育成について、一層の具現化・深化を図るものであるとも示されている。

そこで、現行学習指導要領で示され、次期学習指導要領で一層の具現化・深化を図るものとされている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行うことで、「持続可能な社会を創り出すグローバル人材の育成」という大田区の教育施策の具現化を目的とし、研究主題を設定する。

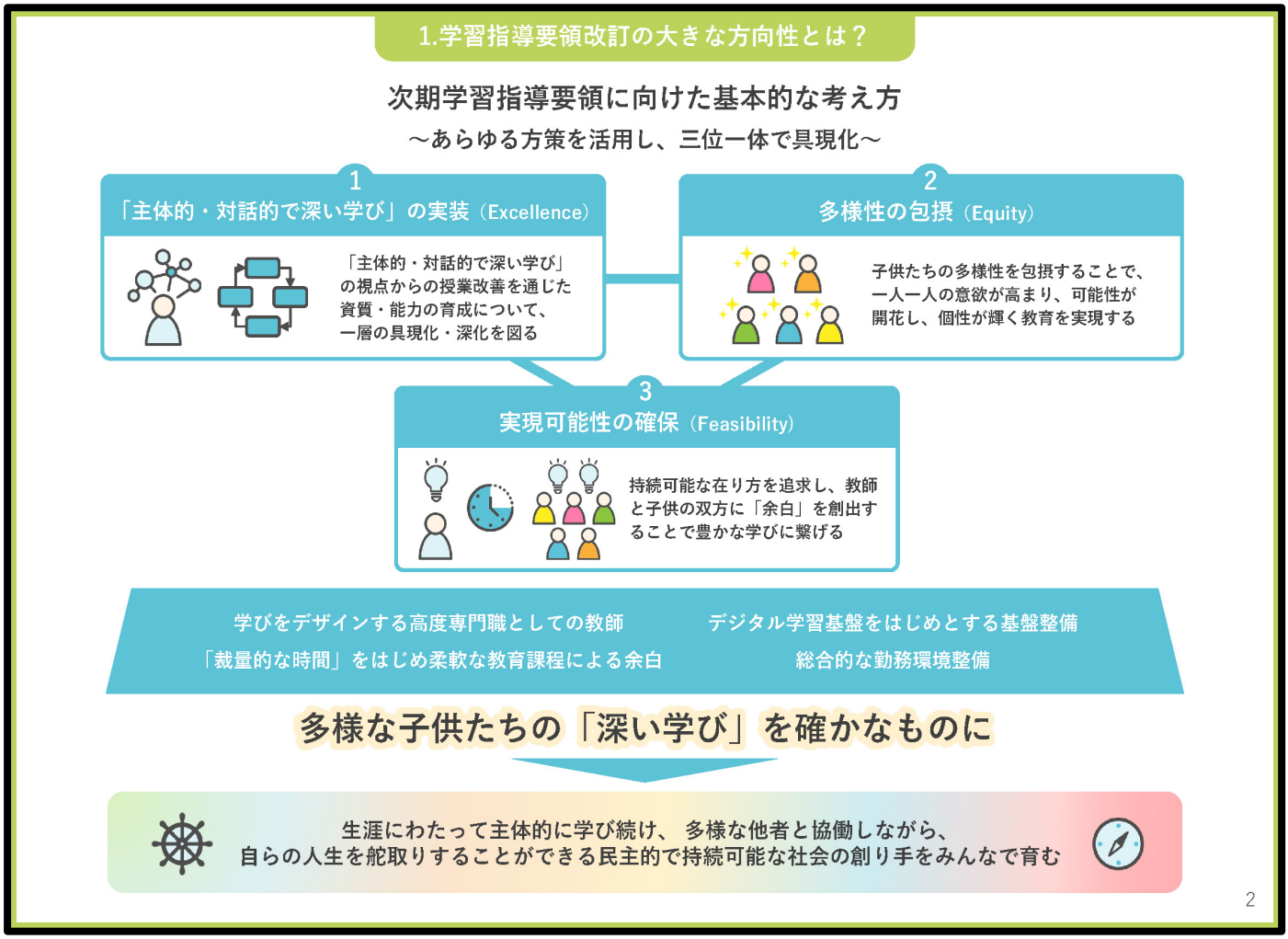
R8年度　校内研究テーマ



「おおた教育ビジョン」
第4期大田区教育振興基本計画
令和年度～令和10年度



「論点整理　ポイント資料：概要版」
令和7年9月25日
教育課程企画特別部会



R8年度　校内研究テーマ

「持続可能な社会を創り出すグローバル人材」とは？

① 生きていく上で基礎となる豊かな心や確かな学力、健やかな体
② 地球規模の諸課題を自らにかかわる問題として捉え、「SDGs未来都市」にふさわしいグローバルな視野をもって、持続可能な社会を創り出す力
③ 英語でのコミュニケーション能力、我が国や郷土の伝統や文化を尊重する心や、異なる文化や価値観をもつ相手と真摯に向き合い、相互に理解しともに生きる態度

これら3つの力を駆使することで、世界を視野に新たな価値を創造し、様々な社会課題を解決することができるグローバル人材のことをいう。

【大田教育ビジョン14ページより】

「各教科等」とは？

各教科等

- 各教科
  - 国語　社会　算数　理科　生活
  - 音楽　図画工作　家庭　体育　外国語
- 特別の教科　道徳
- 外国語活動
- 総合的な学習の時間
- 特別活動
- おおたの未来づくり

R8年度 校内研究テーマ

「各教科等の特質に応じた学習指導」とは？

「**各教科等の特質に応じた**」という言葉を聞くと、**見方・考え方**が思い浮かぶだろう。もちろん、各教科等の特質に応じた見方・考え方を児童が働かせることができるようにするための手だてでもよい。

また、東京都多摩教育事務所が下のようにまとめた「各教科等の特質に応じた学習活動等」のような学習活動について検討してもよいと考える。

さらに、国語では、心情や情景描写について、どのような色分けをして示すのか。算数では、どのような場面で定規を使うように一貫して指導するのかといった具体的な学習指導方法について検討することも考えられる。

この一年間の教科に関する研究を通して、学習に関する「入新井第五小学校スタンダード」なるものを作成できれば、児童は指導者が誰であっても同じように教育を受けることができ、指導者は学校として一貫した高水準の教育を行うことができるようになると考える。

◆ 各教科等の特質に応じた学習活動等

教科等		特質に応じた学習活動等	見方・考え方
国語	小 中	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。	**言葉による見方・考え方** 対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
社会	小	問題解決への見通しをもつこと、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え概念などに関する知識を獲得すること、学習の過程や成果を振り返り学んだことを活用することなど、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図ること。	**社会的事象の見方・考え方** 社会的事象を、位置や空間的なむすびつき、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。
	中	分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。	**【地理的分野】社会的事象の地理的な見方・考え方** 社会的事象を位置や空間的なむすびつきに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。 **【歴史的分野】社会的事象の歴史的な見方・考え方** 社会的事象を時間、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。 **【公民的分野】現代社会の見方・考え方** 社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
算数 数学	小	数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。	**算数科の学習における「数学的な見方・考え方」** 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。
	中	数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。	**数学科の学習における「数学的な見方・考え方」** 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科	小	理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ること。	**理科の見方・考え方** **「見方」については、**自然の事物・現象を ・「エネルギー」を柱とする領域では、主として「量的・関係的な視点で捉えること。　・「粒子」を柱とする領域では、主として「質的・実体的な視点で捉えること。 ・「生命」を柱とする領域では、主として「共通性・多様性の視点で捉えること。　・「地球」を柱とする領域では、主として「時間的・空間的な視点で捉えること。 **「考え方」については、**児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えること。
	中	理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。	**理科における「見方・考え方」** 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
生活	小	児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分と地域の人々、社会及び自然との関わりが具体的に把握できるような学習活動の充実を図ることとし、校外での活動を積極的に取り入れること。	**身近な生活に関わる見方・考え方** 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること。
音楽	小	音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。	**音楽的な見方・考え方** 音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。
	中	音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
図画工作 美術	小 中	造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。	**造形的な見方・考え方** 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。 **造形的な見方・考え方** 対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。
家庭	小	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること。	**生活の営みに係る見方・考え方** 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
技術・ 家庭	中	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。	**【技術分野】技術の見方・考え方** 生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること。 **【家庭分野】生活の営みに係る見方・考え方** 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
体育 保健体育	小	体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決のための活動を選んだり工夫したりする活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。	**体育の見方・考え方** 運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。
	中	体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。	**保健の見方・考え方** 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。
外国語	小	具体的な課題等を設定し、児童・生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。	**外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方** 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。
	中	具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現文法の知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。	
外国語活動	小	具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、三つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。	
総合的な学習の時間	小 中	児童・生徒や学校、地域の実態等に応じて、児童・生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童・生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。	**探究的な見方・考え方** 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰かんして捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること。
特別活動	小 中	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、児童が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること。	**集団や社会の形成者としての見方・考え方** 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること。 **集団や社会の形成者としての見方・考え方** 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせて、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること。

「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（文部科学省　平成29年3月）各教科等から抜粋して作成（東京都多摩教育事務所）

部会のもち方について

① エキスパート主導型

・エキスパートが学習指導案を作成する。
・エキスパートが作成した学習指導案を部会で検討する。
・必要な教材や教具の準備や提案プレゼンの作成は、授業者以外で分担する。



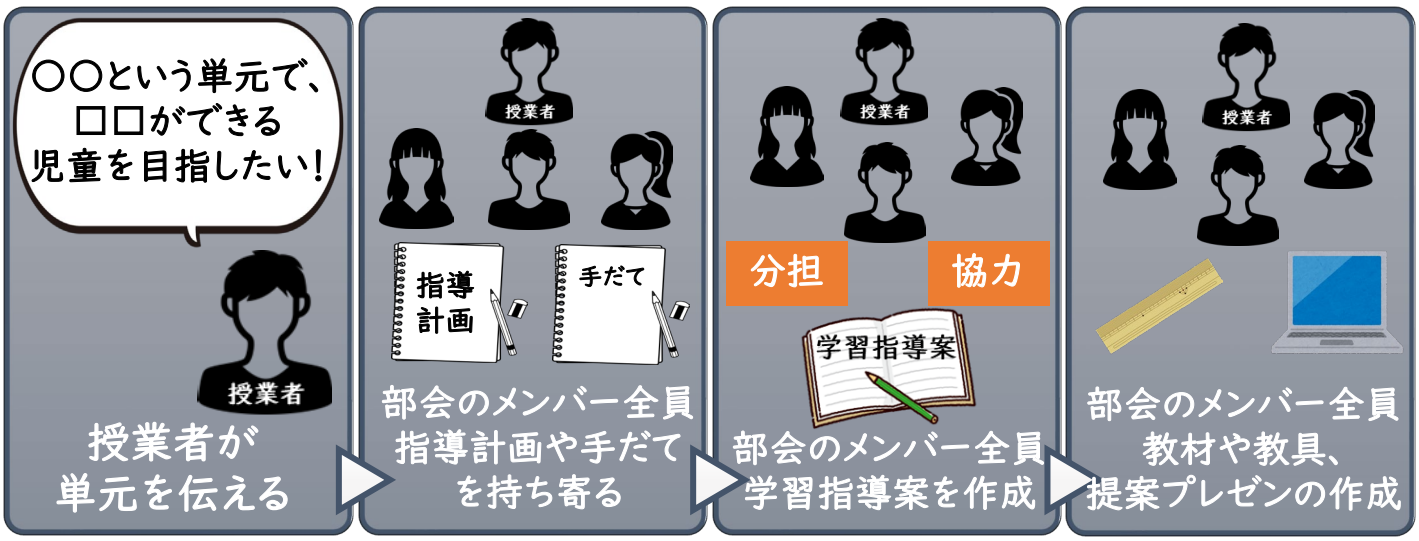
ポイント

・エキスパートが主導することにより、検討時間を短くできる。
・部会メンバーは、授業検討については、受け身になってしまいがちになる。
　└受け身にならないように、積極的に質問をしたり、提案をしたりする。

部会のもち方について

② 授業者中心の協調型

・授業者が単元を部会に伝える。
・部会のメンバー全員が指導計画や手だてなどを持ち寄る。
・部会のメンバー全員で学習指導案を作成する。
・必要な教材や教具の準備や提案プレゼンの作成は、全員で分担する。



ポイント

・部会メンバー全員が何らかの役割をもって参加できる。
・意思決定に関わるプロセスや人数が多いため、検討時間が長くなる。
　└検討時間が長くならないように、検討のポイントを絞る必要がある。

今年度の研究のまとめ

1 研究紀要の作成
・ 予算の都合上、紀要を作成し、自校印刷をする。

2 入五学習スタンダード（仮称）の作成
・ 研究のまとめとして、各教科等および全ての教科共通の統一した学習指導方法を文書として作成し、次年度以降は改善をしていく。

（例）
・ 授業の始まりと終わりのあいさつは授業者が行う。
授業者「これから〇〇の授業を始めます。/終わります。」
児童「よろしくお願いいたします。/ありがとうございました。」
・ 道徳と学級活動(1)では、第〇回を掲示する。
・ 本時のめあてや問いを掲示する。
・ めあてやまとめは「〇の中にめ」ではなく、「めあて」と書く。

検討することの例↓
・ 振り返りの視点を校内で決める。
今回の学びについて自分は…
① 何が分かったか
② 何を考えたか
③ 今日の学びでどのようなことを思ったか
④ 自分なりに考える〇〇とは
4つの中から自分で決めて振り返る。
・ めあてとまとめの色
・ 各教科等ごとの板書の書き方やノートの書き方の指導
・ 児童に配付するプリントの書体は「UDデジタル教科書体」に統一

など